

多様化する入学者選抜の現在

本号の事例・レポートでも見てきたように、昨今の入学者選抜改革は多様を極める。なお、小誌は203号から「高大接続の入学者選抜」を毎月連載している。その特別編として、本稿では多様化する入学者選抜の概要整理を試みたい。

現状の入学者選抜を4象限で俯瞰する

図表1に、佐賀大学アドミッションセンターの西郡教授が整理したAO入試の類型化を示した(小誌197号より再掲)。西郡教授は「重なり合う部分もあり、また全ての入試がきれいに類型化できるわけではない」としながらも、横軸に「目的」、縦軸に「アプローチ」を置くことで、導入目的に応じた4つの象限に分けることができるとしている。

象限①は「お見合い型」。大学と相性の良い学生を「発掘」するマッチング型入試である。従来の面接による選考の多くはこれに当たる。海外ではアイビーリーグ等で一部卒業生が面接対応に駆り出されているケースも見られるが、大学の雰囲気や校風に合致した人材を選ぶのに卒業生は有効な手段のひとつであろう。もちろん、大学教育の独自

性が確保され、その大学ならではの価値を卒業生が獲得できていることが前提となる。

象限②は「マッチング醸成型」。発掘より育成の方向性で、入試受験までに複数回の接触を繰り返し、受験生自身の自省や大学へのロイヤリティを深めていく類型である。事例として取り上げた追手門学院大学のアサーティブ入試等がこれに当たる。複数回接触する意味づけや人的リソースの配置が難しい点はあるが、受験生が持つ本来の志向と実情のすり合わせを丁寧に行うことで、その後のスタンスがぶれなくなり、入学後の成長を見込める側面は大きい。

象限③は「多様人材獲得型」。入学後に高いパフォーマンスを発揮し、他の学生に好影響を与える牽引人材を発掘する入試である。これまでに導入されているお茶の水女子大学の新フンボルト入試、九州大学21世紀プログラムのAO入試等、国立大学で多く見られた類型だが、p.42以降のリストでは東京女子大学の「知のかけはし」入試、神田外語大学のプレゼンテーション入試や、早稲田大学が全国から集まる多様な学生を基盤とした教育に取り組むための新

思考入試も、この傾向が強い。近年企業ではダイバーシティの推進が叫ばれているが、多様性確保は人事戦略ではなく経営戦略であり、どういう事業運営をしていくかに拘る重要項目のひとつだ。大学でも多様性確保は学習活動の活性化に当たるものと捉えられつつある。従来の学力偏重入試では金太郎飴のように似たタイプの学生比率が高くなるというのは、現場の実感値としても高いようである。

象限④は「教育プログラム一体型」。学部学科等の教育プログラムの内容設計から、その教育を実践遂行できる人材を獲得するために入試制度を設計するものである。創価大学のPASCAL入試は全学的に

各入試制度でどういう人を選ぶのかという目的を再考することである。即ち、教育プログラムごとのAPの見直しと、入試区分への落とし込みである。基礎学力が重要な学問では、従来の学力重視型のマイナーチェンジが良いケースもあろう。前述した牽引人材を獲得するには、リーダーシップを多角的に検証する必要がある。どの入試でどんな目的を持たせるのかを俯瞰することで、どこを改変しどう評価すべきかが見えてくる。そのプロセスで教育そのものの捩入れや新学部設置が必要となる場合もあるだろう。

そのうえで、多面的・総合的の評価においては、まずは授業で教室の前から座る意欲の高い30%をどう獲得するかという視点が重要だ。既に入学者選抜改革に踏み切っている大学も、まずはスモールスタートであるべき質の確保を行い、PDCAを回しながら徐々に定員規模を拡大していく傾向が強い。全体を改革するのは大変だが、言葉を選ばず言えば、課題感の大きい学部、あるいはガバナンス上改革しやすいところから手をつけるというのが定石のようである。

なお、入試設計自体について、現状小誌で考える成功のポイントを挙げる。まず、受験生や高校がAPを理解するための場の設定があること。単純に改革を行い何も発信・説明しないままでは、単なる話題作りにはなっても、実質的な志願者獲得には遠い。理解と出願の二段階構造にすることで、漸く高校現場や学生に価値が浸透すること。APに即して入学した学生が本当に成長するのか、どういう教育介入によってそれが可能なのかを検証することなしには、改革も自己満足になりかねない。IRを交えた成果検証で、次の一手につなげる動きが重要だろう。

大学変革に対する社会の認知が低いのは、積極的な情報発信が少ない、あるいは伝わるように発信していないためである。現在過渡期とも言える入学者選抜改革。大学経営が厳しくなる今後に向けて、大学の独自性確保の文脈でAPを中心に見直しを行い、それを積極的に広報していくことが、今まで以上に求められている。

取り組むアクティブラーニングへの適性を問い、立命館大学の一連の改革では特色ある教育プログラムごとに多面的に評価する入試設計を行っている。教育と入学者選抜を一体的に改革するという、国が進める高大接続改革の形に最も近いのがこの類型と言えるだろう。

入学者選抜を改革する目的とは

どの類型が最適かは大学の置かれた状況や戦略により異なるのは言うまでもなく、何を目的とした入学者選抜改革(あるいは教育改革)なのかという目的に照らし、設計すべきであろう。ただし、どの象限でも軸となるのはアドミッション・ポリシー(以下、AP)である。APは「こんな人材を育てるために、こういう教育を準備しているので、こういう能力・適性を持っている人に来てほしい。だから入試ではこのように評価します」という、言わば受験生へのメッセージだ。実際の入試がこれに沿って落とし込まれた内容になっていなければ、整合性に欠けるものとしてマイナスイメージすら与えかねない。「この大学で行う教育とは」「そのために必要な能力とは」といった議論から入試のあり方を捉え直し発信することで、強いメッセージとなって大学の独自化へ昇華することだろう。

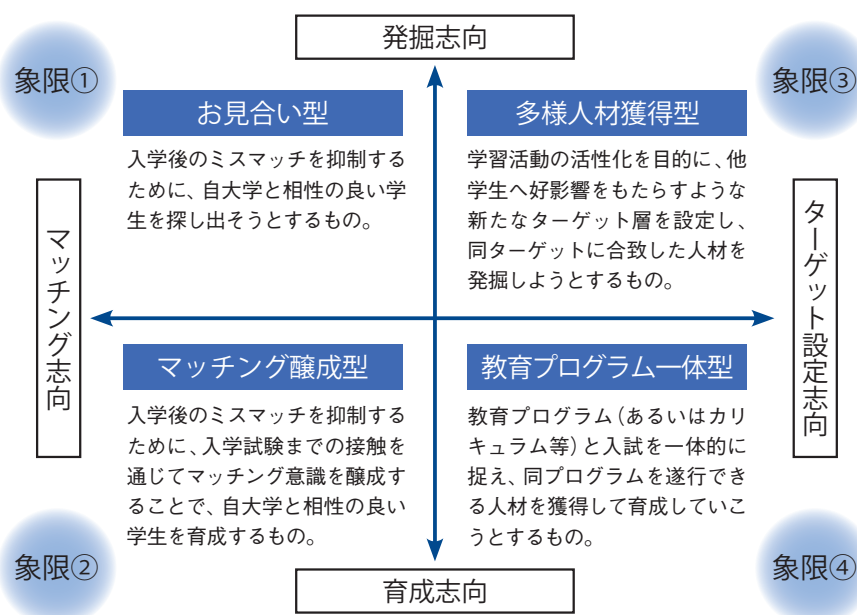
また、いずれの象限でも選抜の基盤は「多面的・総合的評価」である。象限①②で相性や意欲を従来の学力試験で測ることは不可能だし、③で牽引人材か否かを見極めるには多角的な測定が必要となる。④は教育プログラム自体が将来社会を見据えたスキル獲得や、今後成長が見込まれる産業ニーズに応える人材育成を目指す場合が多く、その入学者選抜はまさに21世紀型スキルを求める設計となりやすい。学力テストのみの測定では見えてこない学生の様々なポテンシャルを測る入学者選抜にしなければ、改革の意味がないのである。

見てきたように、多面的・総合的評価を入れることはどの大学でも必要な措置だが、それによって何を達成するのか、どういう位置づけなのかを類型化等で整理し、大学の目指す方向性と合致させる必要がある。

改革を成功へ導くポイント

ではまずどこから手をつけるべきなのか。大事なものは

図表1 大学入学者選抜改革の方向性による分類



リクルート「カレッジマネジメント」197号より

大学の個別入試に関する最近の改革の例

本誌197号で掲載した入試改革リストから更新された情報で、メディア露出が大きかったものや各大学のホームページ、個別取材から、2017年・2018年に新たに導入された多面的・総合的評価を行う主な入試をまとめ、編集部にて作成した。

※その年度の4月の入学者に向けた入試を、該当年度実施として表記(例:2017年度実施入試とは2017年4月入学者向けの入試)

※2017年9月時点で各大学に確認が取れた内容を掲載。最新情報は各大学のHPを参照のこと。

設置	大学	入試名称	入試種類	実施開始年度	入試定員(総定員に対する比率)	対象学部	入試設置目的・求める学生像(AP)			具体的選考方法	評価方法					
											書類等	学力試験	グループワーク・ディスカッション	レポート・小論文	プレゼン・面接	外部試験
私立	札幌大学	GAP推薦特別入学試験	自己推薦	2017	3 (0.33%)	地域共創	当入試制度での合格(あるいはもっと早い段階)から入学までの期間(ギャップ・ブーム)を利用し、留学や社会体験活動に取り組む入試制度。多様な学習歴に配慮し、入学までの期間を利用して、社会体験活動や留学等を通じ、企画力、忍耐力、適応能力、時間管理能力等の向上が期待でき、さらに修学によって社会貢献が見込まれる者を受け入れる。			10月開催のオープンキャンパスまでに活動計画書を提出し、活動終了後発表を行う。事前事後指導、発表に際してのサポート、講評については、青少年体験活動奨励制度のアドバイザー資格を持つ職員が当たる。出願資格については、全教科の中からいずれか一つの評定平均値が4.0以上ある者、または全体の評定平均値が3.5以上ある者が対象。選考方法については、調査書20点(全体の評定平均値×4、高等学校卒業程度認定試験合格者等は調査書の全体の評定平均値を3.5として換算)、書類審査・個人面接80点、合計100点満点で判定。	○				○	
私立	芝浦工業大学	プロジェクト入試	公募推薦	2017	6 (2.5%)	建築	建築学の知識・デザイン・技術をベースに、環境問題、国際問題、災害復興等の社会問題を解決する人材を養成する。これらの問題をテーマとしたプロジェクト科目に取り組み、「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」という意識を持って建築と向き合える人材を求める。当入試では自然科学の基礎知識のうち、特に数学における十分な基礎学力を有する者で、以下のいずれかに該当する経験または素養を持つ者を求める。 1.国内外のボランティア活動に従事した経験がある者 2.過去に自然災害による被災の経験がある者で災害復興等に関心のある者 3.独自の視点により空間や思考を表現することに秀でる者			・実技試験:試験会場におけるスケッチ等。出題課題の詳細範囲は非公開。 ・面接試験:調査書、エントリーシート、実技試験の内容等を元に質疑応答を行う。	○				○	実技
私立	玉川大学	地域創生推薦入学試験(公募型教員養成推薦)	公募推薦	2017	若干名	文、教育、農(生産農学科理科教員養成プログラム)、工(数学教員養成プログラム)、芸術(芸術教育学科)	【入試設置目的】 「教員養成の玉川大学」として教員養成を主たる専門としている学部・学科において地域創生に意欲を持ち、将来、地元で教員を目指す受験生の受け入れを目的としている(東京・千葉・埼玉・神奈川の高等学校の在学学生は除く)。 【アドミッション・ポリシー】 学部により定義			書類審査及び面接試験、実技適性試験(運動能力・基礎体力テスト)* *実技適性試験(運動能力・基礎体力テスト)は教育学部教育学科保健体育専攻志願者のみ行う。 実技適性試験課題: 次の5つの種目で基本的な体力・運動能力を測る。 ・立ち3段跳び ・マット運動(側転・倒立前転) ・Throw & Catch(30秒) ・反復横跳び(20秒) ・シャトルラン	○				○	実技 (教育学部教育学科保健体育専攻のみ)
私立	東京女子大学	「知のかけはし」入学試験	AO	2017	20 (2.25%)	現代教養	単なる知識の蓄積のみに留まらず、得られた知識を十分に活用し、社会貢献できる将来のリーダーとなり得る人材を選抜。 ・「かけはし」という言葉は、初代学長新渡戸稲造が帝国大学の入学試験に際し、「太平洋の橋になりたい」と大志を述べた逸話に由来 ・合格者のうち希望者には、「挑戦する知性」奨学金または知のかけはし奨学金が4年間授与			学力・情報分析力・論理的思考力・課題発見力・リーダーシップ・自分の意見を表現する力を多面的・総合的に評価。 一次選考…出願書類…志望理由書、英語資格・検定試験の成績、英語以外の外国語資格・検定試験の成績、調査書 二次選考…講義、小論文、グループディスカッション、面接、基礎学力検査(数理科科学科のみ)	○	○ (数理科科学科のみ)	○	○	○	講義
私立	東京聖栄大学	AO入試(高大接続型)	AO	2017	28 (17.5%)	健康栄養	入試設置目的:「食と健康」に関する諸問題に強い関心を持ち、学ぶ意欲に溢れた入学者を対象とする。また、学力を構成する特に重要な三つの要素、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体性・多様性・協働性」を上記の選抜方法により、多面的・総合的に評価し、丁寧な選抜を行うことを目的としている。 求める学生像(AP):「健康・栄養・食品に関する専門的知識と技術、技能を身につけ、地域社会や職業社会で活躍できる人材を育成する」を教育目標としている。 教育目標を達成するために、入学者には次の各点を期待する。 ・勤勉で意欲を持って学び続けることができる ・実習や実験等グループワークに積極的に取り組める ・将来の夢や目標を持ち、その実現に向けて日々の努力を惜しまない ・何ごとにも真剣に、全力で取り組みチャレンジ精神が旺盛である ・常に謙虚で向上心があり、失敗してもそこから学び反省して、次の行動に活かすことができる			下記の項目により志願者の持つ能力を多面的・総合的に評価する。 ・学力検査…英語、化学に関する基礎問題で志願者の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を評価する(ただし、化学は化学基礎)。 ・調査書…高校時代の学習・活動歴に関する資料として成績概評(全体ならびに主要5教科の評定平均値)、課外活動(ボランティア・部活動等)、各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の取得状況を評価(点数化)する。 ・面接…15分程度の1:2の個別面接。「思考力・判断力・表現力等」「主体性・多様性・協働性」を評価する。 ・大学入学希望理由書…面接時の参考資料として活用する。 ・模擬授業受講感想文…オープンキャンパスにおいて実施する模擬授業(45分間)の感想文により、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を評価する。	○	○		○		
私立	京都産業大学	次世代型リーダー選抜入試		2017	12 (3%)	現代社会	探究力、思考力、行動力、チーム力、対話力、調整力等を備え、現代社会の複雑かつ多様な諸課題の解決に挑むことのできる人を選抜する目的で実施。 混迷の度合いを深めるこの社会の課題解決に挑むことのできる人材には、「自己の価値観や立場を絶対化せず、多様な属性や価値観を持つ人々を受け入れながらリーダーシップを発揮できる」次世代型リーダーの資質が求められる。また、現実社会の課題に対する答えは必ずしも一つとは限らず、課題を解決するにはこれまでの知識偏重の学力ではなく、様々な経験を通して身についた実践的な能力が求められる。 当入試では、このような資質や能力を評価し、選抜したうえで、合格者には入学前からリーダーとして必要となる知識・スキル等の養成を行う。 <学科共通> (1) 社会の課題に対する探究心や課題解決への意欲を持っている者 (2) 将来、リーダーとして活躍したいと考えている者 (3) 基礎的学力と学習意欲を持っている者 <現代社会学科> 地域や海外におけるフィールド活動に関心がある者 <健康スポーツ社会学科> 健康・スポーツ分野の活動に関心のある者 優秀な成績を収めた合格者(上位2名)に対して、入学後2年間学費の半額(秋学期分)を減免する。			1次選考 書類審査＋リーダーシップセミナー (1)「グループワーク」(約60分×2回):与えられた課題にグループのメンバーと協働して取り組み、結果及び取り組み姿勢を評価。 (2)「リーダーシップ講義」(約45分):「グループワーク」の後に45分講義を実施。 (3)「振り返りレポートの作成」(45分):リーダーシップセミナーのまとめとして、「グループワーク」での取り組みや「リーダーシップ講義」の内容を踏まえて45分で「振り返りレポート」を個人で作成。 2次選考 小論文・個人面接 社会問題をテーマとする小論文試験(60分)を学科ごとに実施。 その後、学科ごとに個人面接(約15分)を実施。→「自己アピール書」の内容の発表(3分)及び出願書類・小論文に基づく質疑応答を行う。 2次選考の可否は、小論文、個人面接、1次選考結果を総合判定する。	○		○	○		

設置	大学	入試名称	入試種類	実施開始年度	入試定員 (総定員に対する比率)	対象学部	入試設置目的・求める学生像(A.P)			具体的選考方法	評価方法						
											書類等	学力試験	グループワーク・ディスカッション	レポート・小論文	プレゼン・面接	外部試験	その他
私立	立命館大学	AO入試 グローバルICT リーダー方式	AO	2017	15 (3%)	情報理工	情報理工学部 情報理工学科 情報システムグローバルコースでは、日本人学生と国際学生が共に学ぶプロジェクト型学習の環境を用意し、グローバルに活躍する人材を育成するため、卒業までの全ての単位を全て「英語」で実施する。情報システムグローバルコースに対応した入試方式のため、従来の学力のみによる評価と異なり、①英語の文章を作成及び理解する十分な能力を備えている、②専門的な知識・技術、正しい倫理観、リーダーシップを獲得することに強い意欲を持っている、ことを基本としたうえで、③情報科学技術を活用・展開していくうえでの基礎となる問題発見と解決の能力、コミュニケーション能力、論理的思考能力、数的処理能力を総合的かつ多面的に評価する。			書類審査(出願書類)及び個人面接(英語)を行い、総合評価により合格を決定。出願書類には英語によるエッセイ、英語外部検定試験の成績証明書を含む。個人面接では、論理的思考能力、コミュニケーション能力、リーダーシップ等を評価する。	○					○	○
		AO入試 ジョイント・ディグ リー特別選抜方式	AO	2018	9 (36%)	国際関係 (アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科、 2018年4月開設)	アメリカン大学・立命館大学国際連携学科は、立命館大学国際関係学部とアメリカン大学 School of International Service が、共同で一つのカリキュラムを提供し、そのカリキュラムを修了した学生に、両大学が一つの学位を授与する学科である。当学科は、キャンパスの内外で効果的なリーダーシップを発揮できるグローバルなマインドと国際社会の諸問題を分析するために必要な基礎学力を有する学生を求めている。卒業後、友好的で相互に有益な東アジア及び日本と米国の関係発展ならびに国際社会の平和と繁栄に貢献する意欲を持った学生を受け入れる。			出願資格として、英語外部検定試験のスコアを設定。 第1次選考 書類審査(出願書類) 出願書類には英語によるエッセイ、英語外部検定試験の成績証明書を含む。 第2次選考 ※第1次選考の合格者のみを対象に実施 個人面接(英語) 最終合格判定 第1次選考及び第2次選考を立命館大学とアメリカン大学が総合的に審査し、合格を決定。	○					○	○
		AO入試 プレゼンテーション 方式	AO	2018	10 (3%)	食マネジメント (2018年4月開設)	食についての幅広い興味や関心を抱き、社会と関わる食についての諸分野を統合的に学び、現代社会において実践的な行動力を発揮できる者を募集する。当入学試験は、食科学を学ぶ意欲と問題意識が極めて高く、かつ自己表現力・問題解決力・行動力に優れ、食マネジメント学部での学びを積極的に牽引する役割を担う者を受け入れることを目的としている。加えて、入学後の学習面においては、特に実践的なプログラムの中心的な役割を担い、理論の学習と社会と関わる実践活動に積極的に取り組んでいくことを期待する。このような目的を実現するために、課題発見・課題解決型のプレゼンテーション方式を採用し、通常の学力試験では測りにくい思考力・判断力・表現力を評価する選抜を実施する。			第1次選考 書類審査(「エントリーシート」・「課題論文」) 出願書類を総合的に評価し、第1次選考の合格を決定。エントリーシートにより、大学入学後の学習意欲・関心等を評価する。課題論文は論文としての構成、内容の論理性・説得力あるいは独創性、語句・漢字が正しく使用されているか等を評価する。 第2次選考 ※第1次選考の合格者のみを対象に実施 ① プレゼンテーション 設定するテーマについて、予め志願者本人が用意した資料に基づきプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション終了後には、教員とプレゼンテーションの内容に関する質疑応答を行う。 ② 個人面接 出願書類(「エントリーシート」・「課題論文」)をもとに個人面接を実施。	○						○
私立	早稲田大学	公募制学校推薦 (FACT選抜)	公募推薦	2017		人間科学	FACT選抜(Fundamental Academic Competency Test):早稲田大学人間科学部での学習を開始するに当たって、入学者に期待される「5つの力」を総合的に評価するための独自の選抜方式。 FACT選抜において重視される5つの力=クリアにする力: 現代社会の諸問題に対する「人間科学的ソリューション」を提供するために必要と考えられる「5つの力」(=クリアにする力)の萌芽を、出願書類(事前課題を含む)、論述試験、面接試験を通じて総合的に評価する。 対話の力 C ommunication 論理の力 L ogic 表現の力 E xpression 分析の力 A nalysis 省察の力 R eflexion			●事前課題提出 特定の現象について志願者自身が実際に観察もしくは調査、検討し、その事実に基づいて要点をまとめ、合理的な考察を加えた成果物を出願書類と共に提出。 ●出願書類提出 志願票、志望理由書、推薦書、高校調査書、外国語能力に関する試験結果 ※対象となる試験:TOEIC®テスト、TOEFL(iBT, PBT)®テスト、IELTS(Academic Module)、GTEC for STUDENTS(Advanced)、GTEC CBT、TEAP(技能パターンは問わない)、実用英語技能検定(英検)、ドイツ語技能検定試験、実用フランス語検定試験、実用中国語検定試験、HSK(中国語検定)、スペイン語技能検定。国際バカロレア(IB)最終試験の成績見込評価証明書(Predicted Score)でも可。 ※2016年4月1日以降に受験したスコアを有効とする。 ●第2次選考 第1次選考合格者を対象に以下の試験を行う。 ①論述試験(120分):データを客観的・批判的に読み取り要約する分析力、得られた洞察の合理性を自ら確認し、また展開する省察性や論理性、示すべき事柄について必要に応じて図や表を併用しながら他者に分かりやすく伝える表現力を評価する。 ②面接試験:所沢キャンパスで実施。	○					○	○
		新思考入試 (地域連携型入試)	総合 選抜型	2018		商、文、文化構 想、人間科学、 スポーツ科学	グローバルな視野と高い志を持って、社会的・文化的・学術的に地域へ貢献する意識を持った学生を求める。全都道府県からの受け入れを目標とし、入学後は所属学部の学びに加え「地域への貢献」をテーマとした全学共通の活動を行うことで、当入試出願に至った志を入学後の学びにつなげる「高大接続」型の入試制度。			●第1次選考(書類審査) 出願時に提出された以下の書類を審査する。 志願票、各種証明書(高校調査書等)、課題レポート、評価書※、活動記録報告書 ※「課題レポート」の内容に対して、第三者に評価の記入を依頼する。 ●第2次選考 第1次選考合格者を対象に以下の試験を行う。 ・総合試験:論理的思考力を問う総合試験を早稲田キャンパスで実施。 ●最終選考 ・各学部が指定する大学入試センター試験科目(3教科3科目) ※人間科学部において「数学」を選択した場合は3教科4科目。「理科」の「基礎を付した科目(2科目)」は1科目として数える。 ●最終合格発表 最終選考として課される大学入試センター試験の得点が300点満点中240点以上(スポーツ科学部については400点満点中320点以上)の者を最終合格とする。	○	○			○		
		新思考入試 (北九州地域連携 型推薦入試)	指定校 推薦	2018		基幹理工 (学系II)	北九州地域の高等学校を対象とした指定校推薦入試で、基幹理工学部学系IIに若干名(最大10名程度)を募集する。理工学術院では、北九州キャンパスに大学院情報生産システム研究科(IPS)を設置しており、当入試制度で入学した学生は、1～3年次に東京の西早稲田キャンパスで基礎教育を受け、4年次からは北九州キャンパスにてIPS教員の指導のもと、卒業論文研究を行う。その後、大学院での研究活動をIPSで行うことを前提としている。			北九州地域の高等学校を対象とした指定校推薦入試で、若干名(最大10名程度)を募集する。							○

設置	大学	入試名称	入試種類	実施開始年度	入試定員 (総定員に 対する比率)	対象学部	入試設置目的・求める学生像(A.P)		具体的選考方法	評価方法						
										書類等	学力試験	グループワーク・ ディスカッション	レポート・ 小論文	プレゼン・ 面接	外部試験	その他
私立	大阪医科大学	「建学の精神」入試		2018	3 (3%)	医	大阪医科大学は、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成することを目指して建学された。建学の精神は「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またその研究は実地の医療に活かすことで完成する」というものである。この精神を活かすためには、教育、研究、診療にあたる人々とそこに育つ人材に、至誠にして仁術を実践する資質が求められることから、その象徴として学是を「至誠仁術」と定めている。この「至誠仁術」は、卒業時及び社会人になって医師として崇高な人間性を備え、最良の医療を施せる医師を意味するもので、医学部はこのような人材を育成することを目的としている。 以上の観点から、医学部の「建学の精神」入試(専願制)では、様々な潜在的な能力を有し、入学後の学修に対する強い意欲を持つ学生を選抜する。これにより多様な人材に医学を学ぶ機会を提供するとともに、将来にわたって大阪医科大学における教育、研究及び医療を推進する人材を育成することを目的とする。当入試の選抜においては、建学の精神に基づき、カリキュラムポリシーに適合できる学力のみならず、高等学校までに取り組んだ活動、医学に対する姿勢や熱意、多職種連携に必要なコミュニケーション力、及び入学意欲等を総合的に評価する。		1 次試験:提出書類による選考 2 次試験:小論文及び2回の面接による選考 最終試験:2 次試験の結果と大学入試センター試験の成績による選考 大学入試センター試験については、センター試験利用入学試験の配点で、得点率が80% 以上であること。	○	○		○	○		
私立	神田外語大学	プレゼンテーション型入試	AO	2018	17 (1.9%)	外国語	入学後に各学科・専攻を牽引する人材を募集する。基本的な知識・技能・コミュニケーション能力だけでなく、思考力・判断力・表現力と課題に向き合う主体性を、プレゼンテーションと面接を通して多面的に評価する。合格者には、大学の特徴である「自立学習型英語課題」や「集合型の特別研修」等、入学前に特別プログラムを提供する。		1.書類審査 2.英語リスニング(約30分) 3.日本語プレゼンテーション(10分～15分)＋質疑応答・面接(15分～20分) ※出願時に、入学志願書、志望理由書(800字以内)、調査書等、プレゼンテーション概要(1200文字以内)を提出する。 ※プレゼンテーションは、学科・専攻が指定するテーマを元に行う。プレゼンテーションの形式は問わない。	○	○			○		
私立	女子栄養大学	アクティブ・ラーニング入試		2018	45 (10%)	栄養	高大接続改革による新たな入学者選抜で、受験生をより多面的・総合的に評価。選考では教員だけでなく、企業や教育現場で活躍している卒業生も加わり、社会で活躍できる資質を持った人材発掘の視点からも評価を行う。		オープンキャンパスで実施のアクティブ・ラーニング入試説明会に1回参加が出願条件。 ①プレゼンテーション＋面接:自己PR及び入学後の目標について ②課題解決型レポート(400文字):食・健康・環境問題等のテーマに対して課題発見・解決力を評価 ③書類審査:調査書・加点書類 ※加点書類:家庭料理技能検定4級以上、食の検定・食農3級以上、6月または12月に開催される食文化栄養学実習発表会(個人発表＋展示内容)への参加・感想等	○			○	○		
私立	創価大学	PASCAL入試	AO	2018	100 (6.7%)	経済、経営、法、文、教育、看護	創価大学への入学を強く希望する受験生を求める。そして、大学入学後の学びを視野に入れ、アクティブ・ラーニングを採り入れたグループワーク(LTD)、小論文、面接を実施し、受験生の表現力、主体性、協働性等を多面的に評価する。		一次選考:書類審査 二次選考:予習教材に関するアクティブ・ラーニング形式のグループワーク(LTD)、小論文、面接	○		○	○	○		
私立	中京大学	高大接続入試 アクティブ型	その他	2018	5 (12%)	国際英語	従来の学力入試では選抜できない、挑戦する姿勢と学ぶ意欲を持つ人物を選抜するための4つの試験スタイル		一次:エントリーシート、志望理由書 二次:学外ツアー、プレゼンテーション、個人面接 ※国際英語学部国際英語学科国際学専攻のみ実施	○		○	○	○		フィールドワーク
		高大接続入試 単位認定型	その他		10 (3%)	経済			8月2・3日に開講する「経世済民の学び」を受講し、講義での成績、及び10月7日の面接等で総合的に評価	○				○		講義受講
		高大接続入試 基礎力評価型	その他		55 (17%)	法			①基礎学力型:出願書類＋全教科評定平均3.0以上＋国語基礎学力試験 ②法学的思考型:出願書類＋全教科評定平均3.0以上＋国語基礎学力試験＋グループディスカッション ③活動実績型:出願書類＋高校での活動実績・資格＋国語基礎学力試験＋面接	○	○	○		○		
		高大接続入試 リーダーシップ型	その他		10 (3%)	法			出願書類＋センター試験3科目＋グループディスカッション	○	センター試験					
私立	東京工芸大学	AO入試高大接続重視型	AO	2018		工	ブレガイダンス及び事前審査を通じて、教員との十分なコミュニケーションを図ることで、入学後に学べることや将来の進路に至るまで具体的なイメージを持ったうえで出願が可能となる入試。 ブレガイダンス(事前申込制)は、必ず参加を必要とする。ブレガイダンスに参加のうえ、事前審査に合格した場合に出願ができる。 事前審査は、2つの方式(「学習・活動成果方式」「課題探究方式」)から、一つを選択する。		「学習・活動成果方式」 ・メディア画像学、生命環境化学、建築学、コンピュータ応用学、電子機械学のいずれかの分野の専門知識や技術を学ぶために必要な基礎的・基本的な知識・技能を、「調査書」「学習・活動成果報告」「面接(口頭試問を含む)」で確認する。 ・工学と感性を融合した新しい分野創成に必要な創造性と実践力を身につけるために必要な思考力・判断力・表現力を、「学習・活動成果報告」「調査書」で確認する。 ・専門分野、工学分野の知識・技術を活かすための健全な倫理観や意欲・使命感を身につけるために必要な主体性及び多様な人々と協働できる力を、「面接(口頭試問を含む)」「調査書」「志望理由書」で確認する。 「課題探究方式」 ・メディア画像学、生命環境化学、建築学、コンピュータ応用学、電子機械学のいずれかの分野の専門知識や技術を学ぶために必要な基礎的・基本的な知識・技能を、「調査書」「面接(口頭試問を含む)」で確認する。 ・工学と感性を融合した新しい分野創成に必要な創造性と実践力を身につけるために必要な思考力・判断力・表現力を、「課題レポート」「調査書」で確認する。 ・専門分野、工学分野の知識・技術を活かすための健全な倫理観や意欲・使命感を身につけるために必要な主体性及び多様な人々と協働できる力を、「面接(口頭試問を含む)」「志望理由書」「調査書」で確認する。	○				○		